

学校運営計画				
教育方針	「生徒一人ひとりを大切に」することを基本に据え、「自ら学び、自ら考え、自ら行動する自立(自律)した人間を育てる」ことを教育目標とし、「自己を磨く」「人とのコミュニケーションを図る」「社会と繋がる」能力の獲得を達成し、「部活で燃える!進路で輝け!」を合言葉に、「全国に名高い部活動・進学校」を目指す。			
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標		
成果: 大学等進学率が2年連続で50%を超え56.7%に増加した。また、ソフトテニス部が県大会で初の男子団体優勝、陸上競技部が全国大会200mで3位など、運動部が県内外大会で活躍を堅持した。なお、通信制課程の設置が認可された。 課題: 入学者の確保、ICT活用、家庭学習の定着、新潟産業大学進学者数の引上げなどの課題がある。また、今年度は通信制課程の順調な運営が課題となる。	(1) 学習指導の充実	① 質の高い授業を実施し、生徒の学力向上を図る。 ② 主体的に学習に取り組む態度を育成する。		
	(2) 生活指導健康教育の充実	① 保護者と連携し、教職員が一致して生徒と向き合う。 ② 基本的な生活習慣を定着させる。 ③ 生徒達自らで律する学校を目指す。		
	(3) 進路希望実現	① キャリア教育の充実を図る。 ② 生徒の進路第一希望達成100%を目指す。		
	(4) 特別活動の充実	① 文武両道を奨励し生徒の帰属意識を高める。 ② 生徒会活動、学校行事、部活動を一層充実させる。		
	(5) 募集広報活動	① 広報活動の充実により志願者の増加、定員確保を図る。 ② 指導実践内容の情報を積極的に発信する。		
	(6) 学校経営組織体制研修	① 通信制課程設置計画を着実に履行する。 ② 研修の充実を図り、ICT活用を推進する。		
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
(1) 学習指導の充実	① 質の高い授業を実施し、生徒の学力向上を図る。	教務	校内での授業見学会や研究授業などの自己研鑽できる機会をつくり、教員全体の授業力の向上を図る。 教員一人ひとりが自らの指導課題を設定し、他校への授業見学を実施し、自主研修の場を積極的に策定する。 シラバスによる詳細な学習計画とその成果の評価を実施する。 外部講師派遣による講習会を実施し、授業改善について取り組む機会をつくる。	
		国語	授業でICT等を活用し、より質の高い授業を実施する。	
		数学	1, 2年次で習熟度別編成授業を実施する。	
		英語	論理・英語表現 I、II、英語表現 II、コミュニケーション英語 III で習熟度別編成授業を実施する。	
	② 主体的に学習に取り組む態度を育成する。	教務	自ら進路を見据えた資格検定を見つけ、より上位級を受検し、知識を身に付ける場や学習意欲を高めるよう広報活動を行う。 自分の考えや意見をICTなどに活用しながら相手に伝えたり、他者の考えの良さを発見したりする場を設定する。 魅力的な放課後学習講座を設置し、その内容を充実させる。	
		国語	課題提供と小テストの実施により、家庭学習の定着を図る。 図書館の活用により、調べ学習を含めたアクティブラーニングの充実を図る。	
		数学	学習記録表で授業の振り返りを行い、家庭学習課題を課し学習習慣の定着を図る。	
		英語	家庭学習課題と小テストの実施により、学習習慣の定着を図る。 英語検定受験を推奨し、生徒一人ひとりに学習に向かう姿勢を意識づける。	
		1 学年	基礎学力と学習意欲向上のため、家庭学習計画表を作成させ、基本的な学習習慣を身につけさせる。	
		2 学年	進路実現に向け、様々な知識を身につけ、自らの進路選択の可能性を広げるために情報収集を行うように指導する。 継続的な学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着と発展問題への取り組みを勧める。	
		3 学年	進路実現に向けて、目標を明確にさせ積極的に、具体的に動けるように指導する。	
		(2) 生活指導健康教育の充実	① 保護者と連携し、教職員が一致して生徒と向き合う。	生徒指導部
1 学年	小さなことでも見逃すことなく生徒の動向に気を配り、変化があれば速やかに保護者に連絡することで情報の共有を図る。			
② 基本的な生活習慣を定着させる。	1 学年			高校生活の目標を定めさせ、社会のルール・学校生活のルールを周知・徹底し基本的な生活習慣を定着させる。
2 学年	身の周りの環境や身だしなみを整え、時間を守るように意識させ安定した学校生活を送るように指導を徹底する。			
3 学年	最高学年としての自覚を持たせ、安定した学校生活を送れるよう、身だしなみ指導や学習環境の整備を徹底して行い、目標にまっすぐ向かっていけるよう指導する。			

	③生徒達自らで律する学校を目指す。	生徒指導部	生徒会・専門委員会・学年委員会・ホームルームで共に学び、共に高め合い、共に注意できる環境に整える。 行事の企画など活動に積極的に取り組み、充実させる。			
		3 学年	生徒会役員の生徒を筆頭に学年一人ひとりが学年全体を引っ張っていけるよう指導する。			
(3) 進路希望 実現	①キャリア教育の充実を図る。	進路指導部	生徒自らの興味・関心を軸に課題を発見し、解決を目指す中で身に着けた資質・能力を。次の学びにつなげる。 キャリア教育の視点に立って進路活動に取り組みせ、生徒の成長を促すとともに学力向上に導く。			
		1 学年	さまざまな行事に積極的に参加させ、充実した高校生活を送る中で、多角的な考えが持てるように指導する。			
		2 学年	総合的な探究の時間で、他地域との違いを比較・考察することによって、多様な生き方、考え方に触れさせる。			
		3 学年	自分の将来のビジョンを持たせ、それを意識しながら具体的な進路活動に取り組みさせる。 「自分らしい生き方を実現するための力」を育成するために、学校行事に主体的に取り組みさせる。			
	②生徒の進路第一希望達成100%を目指す。	進路指導部	進路指導部ニュース等の進路情報や自身の活動の的確な振り返りにより、自身のより良い生き方の模索を図る。 模擬試験や取組みの振り返りを行い、進路実現できる力を養い、希望進路を安易に下げさせない指導を行う。			
		1 学年	幅広い進路選択を可能にするために、自ら情報収集させ、面談等を通して進路についての考え方を広げさせる指導を行う。			
		2 学年	進路情報を自ら収集させることにより進路意識を向上させ、具体的な進路志望を早期に設定させる。			
		3 学年	諦めることなく、更に上を目指す意識を持たせ、自ら希望した目標を全員が達成できるよう支援する。 進路ガイダンス、講話を通じて「職業的自立」「社会的自立」を高め、自分らしい生き方を実現できるように考えさせる。 高い志を堅持させ、第一志望を貫けるように支援し、大学等進学率50%以上、就職内定率100%を目指す。			
(4) 特別活動 の充実	①文武両道を奨励し生徒の帰属意識を高める。	生徒指導部	学校生活のあらゆることに主体的・積極的に取り組むことにより、社会に貢献できる実行力を身につけさせる。 心身を鍛え、心を磨き、学習する環境を整え、困難にも負けない知力・体力を身につけさせる。 部活動や各種検定受験に積極的に取り組むために必要な情報を提供することで、傾聴力を身につけさせ関心や意欲向上に繋げる。			
		生徒指導部	行事において、生徒の自主性を活かし、成就感や達成感の持てる企画や運営を支える。 県内トップクラスの部活動実績を維持し上位大会出場数増加と入賞を目指す。また、年間をとおし、全校生徒が本校のスポーツに関心を持ち、応援する環境づくりを図れるよう指導する。 専門委員会が主となり、校内外の環境美化や施設管理、衛生管理を組織的に活動できるようにサポートをする。			
	②生徒会活動、学校行事、部活動を一層充実させる。	生徒指導部	行事において、生徒の自主性を活かし、成就感や達成感の持てる企画や運営を支える。 県内トップクラスの部活動実績を維持し上位大会出場数増加と入賞を目指す。また、年間をとおし、全校生徒が本校のスポーツに関心を持ち、応援する環境づくりを図れるよう指導する。 専門委員会が主となり、校内外の環境美化や施設管理、衛生管理を組織的に活動できるようにサポートをする。			
(5) 募集 広報活動	①広報活動の充実により志願者の増加、定員確保を図る。	教務	オープンスクール、入試相談会などでの発刊物の内容充実を図る。 部活動毎の体験会や入試相談会を実施し、本校への理解の深化に努める。			
		企画委員会	専願・推薦による志願者の大幅な増加を図るため、県外を含めた情報収集と、より積極的な広報・勧誘活動を奨励する。			
	②指導実践内容の情報を積極的に発信する。	教務	学校PR動画の作成とホームページの強化を行う。 産附通信やSNSを活用し、定期的な発刊と配付を行う。			
		企画委員会	マスメディア等を積極的に活用し、指導実践内容や部活動の実績等の発信に努める。 中学校訪問や高校説明会等の機会に在校生も活用し、指導実践内容や部活動の実績等を直接中学校に伝えるように努める。			
(6) 学校経営 組織体制 研修	①通信制課程設置計画を着実に履行する。	通信制教務室	年間計画・四半期計画・月計画を作成し進捗確認を丁寧に行う。 報告課題と参考視聴動画の作成により、自主自学を促進させる。 スクーリングの2か月前予定提示により、円滑な実施を図る。 テスト作成は担当と密に連携し進捗を確認しながら完成させる。			
		②研修の充実を図り、ICT活用を推進する。	教務	全職員がICTを活用した授業を実践できるように、研修会を実施する。		
			ICT教育推進委員会	タブレットの活用により、双方向授業等の授業改革を推進する。 校務支援システムにより、学校と家庭との密な連携を図るとともに、校務処理のデータ化、校務の負担軽減を目指す。		
	成果				総合評価	

※評価 A：十分達成 B：概ね達成 C：達成不十分 D：未達成